

|    |         |     |   |   |     |
|----|---------|-----|---|---|-----|
| 43 | これからの農業 | 学習日 | 月 | 日 | 名前： |
|----|---------|-----|---|---|-----|

1. アグリビジネス

農業 + ビジネスという意味の造語、農業を「ビジネス」と捉えている

アメリカやオーストラリアで行われる広大な農地での農業、大型機械を導入して大規模に生産

(1 )  
中国や産油国が東ヨーロッパやアフリカの広大な土地を買収、大規模な農業を行う

(2 )  
徹底的に生産・流通を合理化、労働生産性を高めた穀物商社、世界各地に拠点を置く多国籍企業

農作物の生産・流通・販売だけでなく、品種改良・肥料や農薬の販売・農業機械の販売・食品加工も行う

→ 日本では農林水産省が農業の(3 )を推進

農作物を食品以外の用途で利用することも進む

例) 大豆

油をとる、家畜の飼料、(4 )の原料

→ これによってブラジルに穀物メジャーが進出、中国に向けて大豆を輸出

→ 大豆の需給が逼迫、森林伐採が進み農地が荒廃

→ 途上国の環境破壊、貧困化が進む

2. ICT化による変化

(5 )  
農業にICT(情報通信技術)やAI(人工知能)を活用、労働生産性や利益を高める

スマートセンシングによる農地の管理

(人工衛星などを使い、直接そこに行かなくても調査する技術)

さらに、肥料や農薬の使用量を減少させられる → 農地の荒廃を防ぐことができる

農業ロボット、ドローン、スマートフォンの活用など

(6 )を行うことができる  
農業の人手不足の対策

3. バイオテクノロジーと農業

(7 )  
自然条件を克服する(今まで栽培できないところで栽培できる)

収穫量増加

味をよくする

例) 日本におけるコメの品種改良(農林11号、コシヒカリが有名 → さらにここから品種改良)

春小麦の開発(寒冷地での小麦栽培に成功)

(8 )  
人工交配による高収量化と品質の均一化

(9 )  
除草剤への耐性・害虫への抵抗性を高める、高収量化

But 安全性への懸念

日本は遺伝子組み換え作物を禁止していた → 現在は許可、記載が条件

農業の六次産業化 と アグリビジネスの構造の図

